

いのちファーストで〈ちがい〉を活かしあう京都

加藤博史 (共同代表・龍谷大学)

私は、〈持っている私 Having-self〉と〈生きている私 Being-self〉で出来ています。「ハブ (have)」のアイデンティティ (自己証明) には、「男」、「日本人」、「健常者」等があります。ただし、これらジェンダー、民族、心身機能の差異は社会的に造られたものであり、優劣をつけてはなりません。親や祖父母を育んだ文化は人の尊厳の根っこです。だからこそ自文化を大切にするように他文化を尊重します。「ビー (be)」のアイデンティティとは、「私は人間ですよ」、「いのちのつながりのひとつです」との自覚です。**ハブのアイデンティティを絶対視・神聖視せず、否定もせず、その多様性を認識尊重し、ビーのそれで包み込みたいものです。**

エンパワメントとは主体性の発揮のことです。主体性とは、生き方に関し〈自分があるじ〉になり責任を持つことです。モアの多文化福祉委員は、負のレッテルを押し付けられ、それを取り込みがちな「外国にルーツのある人たち」と開かれた対話を行い、**〈掛替えなくユニークで「そのままパーフェクト integrity」なその人の**

ビーのアイデンティティ〉の価値を受けとめ、その人に**反射**します。その人はエンパワメントされ、ポジティブに生きる物語のあるじになられます。基本的人権のあるじにもなられます。安心基地としての**〈コミュニティ=ゆるやかな信頼関係のセット=社会関係資本〉**創りのあるじにもなられます。ちがいを活かしかう社会をインクルーシブ社会と言います。同じ色に染める包摂社会は「反インクルーシブ社会」です。バージニア生まれのAさんも、在日コリアンの金さんも、フィリピン育ちのマリーさん (4pの事例より) も、モアの活動を介し、若い人たちを**ケアする主体**になっていかれました。**ケアは主体化を促す大切な権利**です。モアの支援者もシンクロナイズして深い気づきと自己受容を得ます。これが本当の人格形成としての文化交流 acculturation です。モアのボランティアアクションはこれからが本番です。モアは**〈人権・尊厳・共生〉の地域づくりを、外国にルーツのある人と相互主体的に取り組んでまいります。**(2026年2月28日 20周年記念シンポジウムでの発言より)

昨年のアンケート調査の結果をもとに、 「外国ルーツの人が生きづらさを感じる社会の問題に 気づいてともにつながる」ための発信活動をしました

- 4月30日 KBS京都「ほっかほっかラジオ」に出演、モアの活動と課題について話
- 7月5日 日韓移民における健康公共性推進のためのワークショップ「外国人高齢者支援に関するアンケート調査」報告
- 7月19日 在日コリアン高齢者生活支援ネットワーク・ハナ (ハナネット) 第30回研修会で講演「モアネットワークの多様化する課題と支援活動」
- 12月10日 京都市ケアラー支援条例制定記念シンポジウムで登壇「外国ルーツの高齢や障がいのある人の家族がケアラーとして抱える課題」
- 2月14日 近畿ブロック社会福祉士会研究・研修京都大会 シンポジウム「多様性を尊重する社会正義とソーシャルワーク」で登壇「外国ルーツの人の抱えている生きづらさと支援ネットワークの必要性」

アンケート調査を受けました

- 2025年9月 京都市多文化共生に関する意識・実態調査
- 10月 京都市ケアラー支援計画策定にあたって京都市よりヒアリング



ハナネット
研修会

第20回総会

2025年8月31日に京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで第20回総会を行いました。

はじめに2024年度の事業報告・会計報告、2025年度の事業計画・予算案について確認し、すべて承認されました。

その後の意見交換では、京都市からの助成が半額になったことにより、新たな財源の確保が必要であること、具体的にはホームページやFacebookの活用、新たな助成金の申請、寄付や会員の呼びかけを工夫することを確認しました。

また、モアネットの活動の周知と充実に向けた取り組みとして、京都市のふるさと納税型クラウドファンディング「めばえーる」の助成申請を行い、関係機関へ広く周知し、ニーズの掘り起こしを行うこと。また、SNSを活用し、新たな多文化福祉委員の募集を呼びかけることとしました。

2026年3月の20周年記念事業に向けては、これまでの活動を整理し、振り返りを行って、今後に向けて、支援マニュアルの作成、養成講座の企画、ネットワーキングを充実させるための方法等を検討することとし

ました。

京都市において「ケアラー推進条例」が制定され、外国人のケアラーについても知られることとなりましたが、「ケア」は人として本来大切なことであり、誰もが孤立せず、家族、本人、地域、社会それぞれが役割を持ち、生活の楽しみをもって、互いがケアしながら関係を作る、そのためにモアとしての働きを考えることが重要だと確認しました。

また、多文化福祉委員に日本人や学生が増えていることの意義は大きく、今後、大学と連携するなど活動の広がりにつなげたい。今後、活動の質を確保しつつ継続、充実化させるために、モアネットの組織の強化、制度化に向けた働きかけが重要な課題であるとの意見が出ました。

多文化福祉委員からの意見として、「個人の尊厳が土台である」との理念を大切に、訪問先で「また来てほしい」と言われることが生きがいになっている、多文化福祉委員が複数で訪問することによって関わり方の多様性を感じる機会になっているといった意見が出されました。

京都モアネット 2024年度 事業報告

1. 多文化福祉委員派遣事業

24人の多文化福祉委員が外国にルーツのある高齢者・障がい（生きづらさ）のある46人に対して、978件の生活支援活動を行いました。具体的には、①関係機関からの依頼に応じて、当事者の自宅を訪問、関係機関と連携しつつ安否確認し、母語ややさしい日本語での話し相手・傾聴（精神的支援）、②福祉サービスを拒否した場合も、本人の思いを聞きつつ見守り（孤立予防）、③日本語が通じない／通じにくい場合や、文化や民族の違いによる生活習慣や考え方の異なる人に、当事者の思いを聞き取り、医療・福祉・教育・住宅関係者・ライフライン等との間で母語や簡単な日本語で通訳（文化的背景を理解した言葉の支援）、④行政や銀行等の手続き同行、制度の説明、金銭管理など生活指導（直接支援）、⑤関係機関からの電話相談に応じて支援方法に関するアドバイスや外国ルーツの人向けのサービス情報提供などを行いました。

2. 文化福祉委員の研修・充実化に向けて

活動している多文化福祉委員が集まって「お茶会」を行い、活動報告・情報交換を行いました。障害者地域生活支援センターや大学教員の参加により、情報共有、情報提供を受けながら研修を行いました。

3. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

FacebookやX、ホームページ、通信発行等を活用し、多文化ルーツの人たちの抱えている課題と共生の在り方、活動内容とボランティア募集について幅広い世代に発信しました。

4. 他団体との連携

①京都市国際交流協会「きょうと多文化支援ネットワーク」に事務局が参加して情報交換や協議を行い、2月の多文化支援ネットワーク主催グローバルセッション「超高齢化社会の中の多文化ケアを考える」においてモアからケース報告、グループワークでの進行を行いました。

②2025年1月～2月に京都市の協力を得てwebで「外国人高齢者問題支援に関するアンケート調査」を行いました。その結果報告を兼ねて、3月8日、「外国ルーツ高齢者問題に関するネットワーク交流会」をZOOMと現地同時開催し、医療・福祉関係者、大学関係者、外国人人材派遣事業所、当事者等と情報交換を行いました。

京都モアネット

きょうと多文化支援ネットワーク

でFacebook、ホームページが出ます

京都モアネット20周年記念シンポジウム

「京都発！多文化共生づくりへのヒント」

2026年2月28日（土）於：龍谷大学

モア20周年記念シンポジウム 参加費無料/オンライン同時開催

京都発！
たぶんかきょうせい
多文化共生
づくりへのヒント

2026年2月28日（土）14:00～17:00
(13:30開場)

第一部 モアネット20年のあゆみ 石川久仁子(大阪人間科学大学教授)

シンポジウム 多文化福祉委員活動の報告

14:00 01 アメリカ人独居高齢者への関わり 山口恵子
15:15 02 施設入所者在日コリアン2世への関わり 南珣賢
03 フィリピン人女性と夫と2人の子どもの関わり 村木美都子

第二部 みんなで考えよう
さまざまなルーツの人が共生できるまちは
コメンテーター 朝倉美江

15:30 金瓶学院大学人間科学部教授、博士(社会福祉学)
17:00 著書に「多文化共生地域福祉への展望 多文化共生コミュニティと日系ブラジル人」
【単著、共著出版】、「多文化福祉コミュニティ 外国人の人権をめぐる新たな地域福祉の課題」(共編著、調査書)など

閉会の挨拶 加藤博史(龍谷大学名誉教授・モアネット共同代表)

会場 龍谷大学深草キャンパス 和顔館地下1階 B108号室

お申し込みフォーム
申し込みフォームが読み込めない場合は、問い合わせ先へご連絡ください。
URL: <https://forms.gle/cU7oXdxStLK1x5TJ9>
▼オンライン参加の方は、締め切り前にお申し込みください。【締切：2月20日(金)】
▼会場参加の方は、当日参加も可能です。
▼手話通訳やその他の配慮が必要な方は、申し込みの際にお知らせください。可能な範囲で対応いたします。

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」

会場とオンラインを合わせて54人が参加し、活動内容などを共有することができました。今回は、昨年開催した「外国ルーツの高齢者問題に関するネットワーク交流会」の第2弾も兼ねて開催されました。

1. 挨拶

阪口春彦（運営委員、龍谷大学短期大学部）

京都モアネットは2006年に発足、今年3月で20周年を迎えます。外国にルーツのある人たちが地域生活で抱える課題に向き合う京都市との共同事業として寄り添い支援を行ってきました。在日コリアンをはじめとする外国にルーツのある人たちへの理解のある外国人福祉委員による支援制度を京都市で実現化することを目指してきましたが、京都市からの助成が2年前より半額となり、現在厳しい財政状況に直面しています。



外国人福祉委員による支援制度を京都市で実現化することを目指してきましたが、京都市からの助成が2年前より半額となり、現在厳しい財政状況に直面しています。

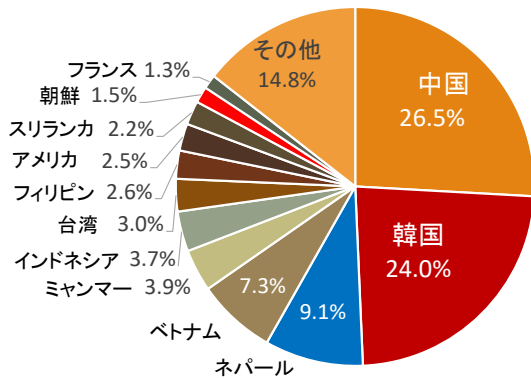
阪口春彦（モアネット運営委員・龍谷大学短期大学部）

「制度化に向けて、市議会、京都市行政、高齢者福祉計画や地域福祉計画策定関係者に理解を求めたい」

2. 20年のあゆみ

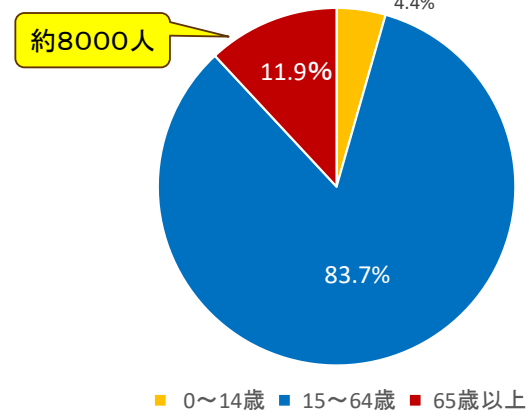
石川久仁子（運営委員、大阪人間科学大学）

京都市に在住する外国籍住民の国籍（%）



出典：京都市における外国籍の住民基本台帳登録者数（2025年12月末）より作図

京都市に在住する外国籍住民年齢構成（%）



出典：京都市住民基本台帳（2026年1月1日時点）より作図

外国籍市民数が2025年12月末で過去最高、国籍や在留資格が多様化している

モアネットのミッションは、京都在住の高齢者・障がい者が保健・福祉・医療サービスを平等に受けられること、そして外国人が健康で文化的かつ安定した生活を送ることができる多文化共生社会の実現です。

〈活動の変遷〉

第1期（2006～2010年）は外国人福祉委員の養成と派遣に取り組みました。在日無年金



石川久仁子（モアネット運営委員・大阪人間科学大学）

「あらためて、行政と民間との協働の形を問い直す必要がある」

訴訟をきっかけに京都市の特別給付金制度が生まれましたが、対象者680人に制度が届いていないことが明らかになり、モアネットが誕生しました。

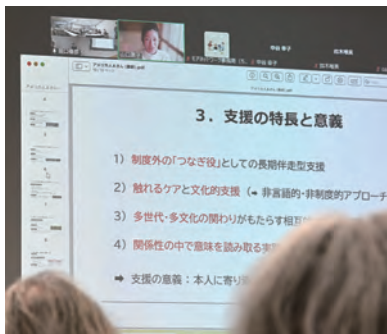
第2期（2011～2015年）には、南区東九条や伏見区小栗栖団地で高齢者生活実態調査を実施しました。自治会や民生委員などの協力を得て面接調査を行い、外国人福祉委員制度が十分知られていないことや、民生委員・老人福祉委員の支援が届いていないところがあることが明らかになりました。地域の民生委員・老人福祉員との協力関係を築くため、多文化理解のための寸劇ワークショップも行いました。

第3期（2016～2020年）には名称を「多文化福祉委員」に変更し、活動を広げました。福祉委員の勉強会を設け、研修や引継ぎの場として重要な役割を果たしてきました。またネットでの広報に力を入れた時期です。

第4期（2021年～）では、京都市からの助成金が半減したこともあり、新たな資金確保に取り組んでいます。

3. 多文化福祉委員活動報告

①「多文化背景を持つ重度要介護者への長期在宅支援」 アメリカ人高齢者Aさん85歳の事例 [オンライン： 山口恵子]



オンラインでの報告・山口恵子（モアネット多文化福祉委員）
「Aさんは興味のある内容だとスイッチが入って反応がよくなる。訪問によって彼の社会とのつながりを再構築できている」

ケアマネージャーから通訳の依頼があり、2017年から週1回訪問し、母語で話をしています。言語によるコミュニケーションが難しい状況の中で、背中をさする非言語コミュニケーションや、母語や文化的背景を大切にした関わりが行われました。Aさんが書いた詩集を声に出して読むなど過去を振り返る交流、福祉委員を通してつながったAさんの旧友の訪問によって、Aさんから発語や豊かな感情の反応が見られました。多世代や英語ネイティブなど多様な支援者が関わることで社会とのつながりを保つ支援が続けられています。

②「語りがつなぐ人生」施設に入所した在日コリアン2世 金淑子（スッチャ）さん92歳の支援事例 [南珣賢]

施設入所後に不安や怒りの訴えが多く見られ、傾聴してほしいと施設から依頼がありました。貧困、差別、長年の肉体労働という過酷な人生を語る機会を、複数の福祉委員による定期訪問で傾聴す



南珣賢（モアネット事務局）

「オモニは、貧困とか差別とか子育てへの後悔とかいろんなことが重なって怒りや不安になる。私たちがオモニの語りを整理して、出会えていない家族に伝えたい」

ることによって、スッチャさんの表情が穏やかになり、「こんな話を聞きに来てくれたんか」「また来てや」「今が一番幸せ」などの変化が見られました。私たちがウトロ平和祈念館に同行し、自らの歴史を振り返る経験も行われ、自己肯定感の回復や社会的記憶の継承につながっています。

多文化福祉委員の学生さんと

ピンクの
チマチョゴリを
着てニコリ！



金淑子さん

「勉強もできなかったし、どういう環境が子育てにいいのかわからなかった」「環境というのはみなさんのこういう会話が作るんや」オモニは私たちに哲学を語ります。

③「複合的な課題を持つ家族への支援」フィリピン人マリーさん（仮名）、心の課題を持つ日本人夫、子ども2人の家族の事例 [村木美都子]

本事例からの示唆とモアネットの役割

1. 通訳・文化的仲介の重要性

- ・単なる通訳ではなく、文化的背景や生活文化を理解した上での支援
- ・安心して過ごせる場としての役割

2. 家族を単位とした継続的な支援

- ・エコシステムのアプローチ「個別ではなく家族全体の課題」とした支援
- ・子の成長など時間とともに変化する家族に関わり続ける、伴走型の支援

3. 他機関連携におけるコーディネート

- ・家族それぞれが、学校・保健・医療・福祉などの支援を活用しており、それを一括して把握し、それぞれをつなぐ

フィリピン人マリーさんの家族へのアプローチ

場面緘黙気味の子どものことについて母マリーさんの通訳をお願いしたいと、障害者地域生活支援センターから依頼がありました。タガログ語を話す福祉委員が関わることによって、言語だけでなく、家族関係、子どもの発達など複合的な課題がみられました。障害者地域生活支援センターとの協働によって、母語や簡単な日本語でマリーさんの思いを聞きつつ、学校や療育施設、保護者につながり、彼女の日本語力が向上しました。夫婦や子どもたちそれぞれの思いを受け止めながら伴走支援を行うことの重要性が示されました。



村木美都子（モアネット事務局）
「自分を応援してくれる人がいるんだと知ってほしい」

4. コメント



朝倉美江さん（金城学院大学）
「あきらめないでやっていくこの活動が続いて希望になるように発展することを願っています」

朝倉美江（金城学院大学）

外国ルーツの人々をめぐる状況は厳しく、排外的な社会の広がりも見られます。その中で、多文化福祉委員が**地域の生活者として一人ひとり向き合い続けていること**の意義は大きいと思います。また、外国ルーツの人々は社会の中で孤立しやすく、必要な支援が届きにくい現状があります。今

回の事例では、多文化福祉委員が**地域に向いて関係を築き、多様な機関とつながることで支援のネットワークが広がっていました**。複数の機関が関わることで課題が見えやすくなり、**生活の質の向上**にもつながります。さらに、**コミュニケーションが難しいことから本来の力が見えにくくなる**場合がありますが、**対等な関係を形成して関わることで本人の力が引き出され、自信の回復につながります**。こうした関係づくりは、多文化共生の地域づくりの基盤になるものです。

現在、日本では**外国人労働者の受け入れが進み、外国ルーツの人々の定住化や高齢化も全国的な課題**になっています。一方で**排外的な言説も広がっており**、差別や偏見が社会に影響を与えています。歴史的にも日

本社会には**植民地支配や移民の歴史があり、そうした背景を踏まえて多文化社会を考える**必要があります。多文化共生とは、**複数の文化が共に存在することを前提に、誰もが平等に参加できる社会**をつくることです。多言語による相談体制や地域でのつながりづくりなど、具体的な取り組みを積み重ねていくことが重要です。京都で続けられてきた**モアネットの活動は、顔の見える関係を地域の中で広げてきました**。こうした実践を**基盤に制度や支援を発展させていくことが、これからの多文化共生の社会づくりにつながると期待**されます。

5. シンポジウムによる意見交換から

- 保育園では教育委員会の通訳がつかない、学校でも限られた場面では通訳が提供されない、その都度通訳が変わることの課題がある。
- ケアマネージャーをしている。外国人の方のケースも増えており、相談に対応してもらえるか。
- 福祉委員として重要な資質は、言語能力以上に相手を受け入れる姿勢が重要である。
- 学生の参加によって相互学習効果が生まれている。

6. 新たな挑戦：赤い羽根共同募金会からの助成による事業展開

呉世雄（運営委員・立命館大学）

- ①20年間蓄積された事例を体系化した研修プログラムの開発
- ②お茶会（多文化福祉委員研修）でのスーパービジョン機能の強化と、多文化福祉委員活動のためのハンドブックの作成
- ③ネットワークのさらなる活性化、LINEオープンチャット機能を活用したウェブ上でのネットワーク構築

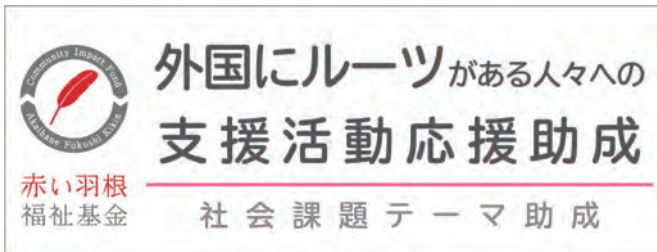
7. まとめ

加藤博史（共同代表・龍谷大学）→巻頭言に掲載



シンポジウムの様子

共同募金会 赤い羽根福祉基金「社会課題テーマ」助成 (外国にルーツがある人々への支援活動応援助成・第6回)に 採択されました



モアネットの活動をさらに充実させるための事業に対して、助成金を獲得することができました。2025年10月から2026年9月までの1年間、200万円の助成を受け、3つの取り組みを進めます。



「お茶会」を機能強化します

- ①研修プログラムの開発と実施。これまでの支援事例から実践の工夫やノウハウが伝わりやすいものを選び、分析を行ったうえで教材化し、研修会を通じて支援の担い手の拡大を目指します。
- ②「お茶会」の機能の充実。福祉委員や実践者に加え研究者も関わる体制を整え、学び合いと振り返りの機会を深めます。また、新たに参加する多文化福祉委員向けに、支援の流れや連携のポイントをまとめたハンドブックを作成します。
- ③ネットワークの活性化。対面に加え、LINEのオープンチャット(QRコード参照)を活用し、オンラインでも情報共有や相談ができる場を広げます。



ぜひ皆さんご参加ください。これまでの実践を「見える化」しながら、次の20年に向けて活動をさらに発展させます。

運営委員 呉世雄

関係機関からの相談

村木美都子

京都府内の自治体から、災害で被災されたアルコール依存の傾向がみられるアメリカ人独居高齢男性で、言葉が通じない、転居先が見つからない、モアで対応可能かと相談がありました。京都市内に転居されるなら支援できる、日本に長年居住しているなら日本語が分かるはずだと伝えました。その後、介護保険のケアマネージャーが付き、アルコールが抜けると日本語での会話が可能なことが判明。友人関係、家族とのつながりなどが徐々にわかったようで、ケアマネージャーとのやりとりで何とかかなりそうでした。

また、小学校の教師から、中国と日本を行き来している家族の子どもに発達面での課題があり、親が日本語を話せないため、モアにつなげられないかと連絡がありました。親が忙しくて、子育てに悩みを抱えていて

もつながる人がいない、という課題でした。京都市では、外国ルーツの子どもの日本語学習支援が進んでいましたが、日本語を話せない親に対する言語支援が十分ではありません。また、親は、仕事が忙しい、友人がいないなど、孤立していることがあるようでした。そこで、相談窓口としてモアネットがあることを小学校から親に伝えてくれました。近い日につながれたらと思っています。

モアネットの存在が少しずつ知られるようになり、私たちが関係者に情報提供やアドバイスをすることが増えてきました。ネットワークが広がり、ゆるやかにつながることで、私たちが社会資源の一つとして活用されるよう願っています。

めばえーる報告

2025年度 京都市地域の福祉活動応援事業（愛称：めばえーる事業）に採択されました。

めばえーる事業とは、「活動を広げていきたい」「資金が足りない」といった悩みを抱える団体と京都市が協力し、寄付（ふるさと納税型クラウドファンディング）を募り、その寄付額に応じた補助金を団体の活動に交付する事業です。

外国ルーツの人の困ったを一緒に「解決し隊」！～身近な場所を多文化な地域に～



活動の趣旨などはこちら↑
<https://furusato-forgood.jp/projects/000298>

当初の目標額には一歩及びみませんでした。多くの方に応援やシェアをいただきました。

本当にありがとうございます。

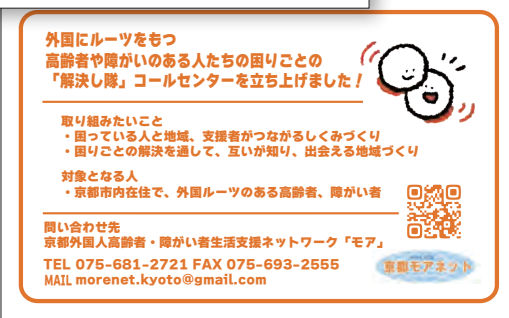
今回、モアネットでは、「外国ルーツ高齢者・障がい者と地域住民や支援者の困ったを『解決し隊』コールセンター～気づいて・知って・つながろう！多文化な地域づくり～」という活動に取り組みました。

コールセンターを設置し、悩み事を抱える方から相談を受け付ける体制を整えました。

また、名刺サイズの「解決し隊 連絡カード」を作成し、福祉の相談窓口となる区役所や地域包括支援センター、病院などに配布しました。これにより、困りごとのニーズをキャッチするとともに、多くの方の目に触れる機



めばえーるカード
(南区障害福祉課)



会を広げることができました。

「カードを設置できるよ」という方がいらっしゃいましたら、ぜひモアネットまでご連絡ください。

これからも、地域住民が互いに出会い、民族や生活文化の違いから生まれる多様な価値観を知り合いながら、ともに元気になれる多文化共生の地域づくりを目指して活動を続けていきます。

●多文化福祉委員～一緒に活動してみませんか？

外国にルーツのある高齢者や障がいのある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からのご相談に応じて活動を行います。文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため生活に困ることがあります。外国語ができなくてもOK。日本語で会話ができる方も多くおられます。

★交通費程度の活動費を支給できます。

★支援現場に行ってみ学/体験し、登録の上、必要時に活動をします。

●活動内容

- ①傾聴/話し相手：来所や自宅にてゆっくりお話を聞きます。
- ②既存の制度やサービスでまかなえない部分の支援：郵便物の代読・説明、病院や役所などの手続き同行、手続き代行など
- ③通訳：医療機関や役所等で、ご本人の意思や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします。

★文化的背景がちがっても、自分らしく
生きることのできる生活を応援します



ホームページ



Facebook

2024年度支援内容

福祉紹介	高齢者福祉	2	
	障害者福祉	0	
	その他の保健福祉・居住・法的サービス	1	
	小計	3	
相談・傾聴内容	安否確認	670	
	生活関係	506	
	家族関係	277	
	人間関係	177	
	生きがい相談（趣味活動）	52	
	精神面	187	
	経済面	182	
	言語・コミュニケーション関係	545	
	民族文化・歴史等	50	
	健康（病気・体調）	322	
	栄養食事関連	94	
	介護サービス	49	
	その他	4	
	小計	3115	
関係機関との連絡調整	福祉事務所	5	
	役所	1	
	その他（保健センター・健康保険関係等）	1	
	介護保険関係	197	
	障害福祉関係	97	
	医療関係	53	
	家族	63	
	その他（ライフライン・業者・近隣住民等）	155	
小計	571		
直接対応	外出同行	41	
	通訳（医療・行政・ライフライン等）	36	
	代筆、代理支援	20	
	家事援助	10	
	身体介護	101	
	生活支援（代読、代筆、制度の説明など）	73	
	小計	281	
合計		3970	
2024年度	対象者	46	
	活動した福祉委員	24	
	活動件数	978	
	のべ支援内容	3970	
対象者のルーツ			
韓国・朝鮮	36	タイ	1
アメリカ	2	ベトナム	1
フィリピン	3	オーストラリア	1
フィンランド	1	中国	1
		計	46
高齢	36	障がい	10

2024年度収支報告

(2024年4月～2025年3月) (単位：円)

科目	2024 決算	
1. 収入		
京都市助成金	946,980	
賛助寄付金	886,580	
会費	36,000	
預金利息	759	
雑収入	0	
当期収入合計 (A)		1,870,319
2. 支出		
1) 福祉委員派遣事業に係る費用		
・報酬費	464,000	
・連絡調整費	157,800	
・上記に関する交通費	68,780	
・通信費	63,836	
・事務費	2,815	
・賃借料	600,000	
・雑費	0	
		1,357,231
2) 福祉委員研修		
・報酬費	203,500	
・交通費	0	
・事務費	28,080	
		231,580
3) 福祉委員募集		
・報酬費	196,400	
・交通費	6,170	
・事務費	100,330	
・通信費	2,249	
		305,149
当期支出合計 (B)		1,893,960
当期収支差額 (A) - (B)		▲ 23,641
前期繰越差額		51,802
次期繰越額		28,161

編集後記

20周年記念シンポジウムが終わってほっとしたところで、これからがまた大仕事。養成講座や研修プログラム、ハンドブックづくり、関係機関のネットワーキング…。それに、現在高齢である外国ルーツの人たちの歴史や思いを、一人でも多くの人に傾聴してもらいたい。したいこと、しなければいけないことは山積みだけれど、これらの作業を通して人のつながりがすこしずつ広がっていくことは、大きな希望なのかもしれません。ルーツのちがいによって生きづらさを生み出す社会の問題に対して、互いが出会って、知って、試行錯誤する。その向こうに笑顔がみられる、そんな場を増やしていきたいです。お手伝いしてくれる人、ぜひご連絡ください。

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」（京都モアネット）

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町12 NPO法人エルファ内

TEL 075-681-2721 / FAX 075-693-2555 E-mail morenet.kyoto@gmail.com

郵便振替口座：00990-4-314429

加入者名：京都外国人高齢者障害者生活支援ネットモア

♥支援カンパよろしくお願ひします♥